

Ⅱ 研究開発実施内容

研究開発 1 課題研究 ― G L 探究 ―

1 目的と期待される効果

(1) 目的

日本の歴史・伝統・文化を踏まえて、グローバルな社会課題である国際間での文化や社会の対立を排除し、多文化共生社会の実現を図る課題研究を行うことを通して、グローバルな視野に立って探究し、課題を解決する資質、能力、態度を身に付ける。

また、課題研究の発表は、英語で行い、レポート等は英文表記でまとめることを通して、英語でのコミュニケーション力を向上させる。

(2) 期待される効果

課題研究の取組により、日本の歴史・伝統・文化を踏まえて多文化共生社会を構築するグローバル・リーダーとしての資質や能力が身に付くことが期待される。

2 内容

(1) 普通科 1～3 年次の「G L 探究」(総合的な学習の時間)においてグローバルな社会課題について課題研究を実施する。なお、G L とはグローバルラーニングの略である。

※令和元年度入学生より、「総合的な学習の時間」は「総合的な探究の時間」に変更。

(2) 地歴公民科及び英語科を中核とするが、基本的には全職員がテーマごとにチームを作って適切な準備をして生徒の指導を行う。

令和元年度からは、全教科の課題研究への関与・浸透をはかるため、1 年生への講義・演習を、全教科で担当するよう改善した。

(3) 課題研究の成果は、年度末に校内外の高校生、保護者及び近隣の小中学校を対象に発表会を行い、S G H の普及を図る。また、成果を研究収録として冊子にまとめ、県内の高校等や全国の S G H 校に配付し、S G H の成果の普及を図る。

3 実施方法

(1) 1 年次の「G L 探究」において、様々なテキストや資料、インターネット等で得られる情報等を用いて、グローバルな視点から歴史や地理、政治、経済等の基礎的な内容を学ぶ。基礎的な事柄及び得られた知識を整理するとともに、課題研究の手法も取得して、2 年次からの課題研究に備える。

(2) 2～3 年次の「G L 探究」では、「G L アクティブ」や 1 年次に得た知識や手法を基に、各自または各班で課題研究に取り組む。

(3) 千葉大学国際教養学部と連携を図り、課題研究の進め方やまとめ方の指導を受ける。この中で指導する教員対象のレクチャーも並行して実施する。

(4) 研究に必要な資料や情報の収集及び研究のアドバイス等は国立歴史民族博物館、国際協力機構(J I C A)やD I R E C T F O R C E の協力を仰ぐ。

(5) 学年終了時に課題研究発表会を行い、研究成果を口頭やポスターで発表する。

4 検証評価方法

- (1) S G H運営指導協議会において、運営指導協議員による評価を行い、改善を図る。
- (2) 年度末に生徒及び保護者へのアンケート調査を行い、年度ごとのグローバル意識の変容について調査、分析し、改善を図る。
- (3) 校内外での発表の件数や発表会における入賞の件数や生徒の進路希望の変化について検証する。

5 G L 探究 研究形式の5年間の変遷

	1 年	2 年	3 年
1 年目	協働研究・6 人編成 ポスター発表 (全班英語発表) 担任・副担任担当型		
2 年目	協働研究・6 人編成 ポスター発表 (全班英語発表) 担任・副担任担当型	協働研究 (メンバー継続) プロジェクター発表 (日本語・英語選択) 担任・副担任担当型	
3 年目	協働研究・6 人編成① ポスター発表 (全班英語発表) ② 担任・副担任担当型	協働研究 (メンバー継続) プロジェクター発表 (日本語・英語選択) 研究分野別編成③	研究報告書作成④ Word 8 ページ以上 (日本語・英語選択)
4 年目	協働研究・4 人編成⑤ ポスター発表 (日本語・英語選択) 研究テーマの自由化⑥ 担任・副担任担当型⑦	協働研究 (メンバー継続) プロジェクター発表 (日本語・英語選択) 担任・副担任担当型	研究報告書作成 Word 8 ページ以上 (日本語・英語選択)
5 年目 コ ロ ナ 影 響	協働研究 プロジェクター発表⑧ (日本語・英語選択) 担任・副担任担当型 劇的なオンライン化⑨	協働研究 (メンバー継続) ⑩ プロジェクター発表 (日本語・英語選択) 担任・副担任担当型	研究報告書作成 Word 8 ページ以上 (日本語・英語選択)

① 意欲的な試み 全学年・全生徒参加型 G L 探究

指定3年目となり、全学年が課題研究に取り組むプログラムが出来上がった。目標とした姿であり、研究内容や成果物の点でも光るものが登場した。

しかし課題も顕著となる。最大の問題は、教員の負担増・マンパワー不足である。従来の教育活動プラス GL 探究&GL アクティブ&海外研修である。特に英語科教員の負担は限界に達していた。1 学年は全班英語ポスター発表を必須とし、2 学年の3 割の班は英語発表を実施し、3 学年では英語発表班は英文報告書を作成する。加えて5 か国海外研修である。早急な対応が必要となった。

② 英語発表は貴重な体験であるが…

G L 英語とリンクして、全班が英語発表を行うという意欲的な試みである。

目的も理解できるし、生徒の成長も大きい。しかし、これも修正を図ることにした。

(理由)

- ・ 英語科教員、G L 英語の授業の負担が大きい。
- ・ 研究内容が浅い段階で、英語による発表準備に入らざるを得ず、研究内容より英語発表を優先するスタイルに疑問が生じた。
- ・ 英語発表の準備に入った段階で、担任等、課題研究班担当教員の助言・関与の余地が小さくなり、研究の発展性が乏しくなった。

(修正)

- ・ 次年度から英語発表を選択制し、生徒が課題研究を楽しみ主体的に研究するスタイルへ路線を変更した。

③ 3年間を通した課題研究と教員側の指導体制の在り方

研究班・研究テーマは基本的には1年次から継続する形をとった。3年間で研究内容を深める目的である。もちろん研究に行き詰ったり、発展性のない場合には変更も認めた。

この年③は実験的に、教員の興味関心を生かして、研究テーマ分野ごとに知見に富む担当教員を割り振る形をとった。しかし、検証結果は思わしいものではなかった。理由は、教員と研究班の接点が、週1時間しかなく、日常的・継続的なコミュニケーションがとれなかった点である。1年次のようにクラス単位で担任・副担任が担当するスタイルであれば、連絡は円滑である。よって現行クラスと担任を基礎とした課題研究スタイルに戻ることとした。

④ 情報教育との連携（結論：情報の授業は1年次が望ましい）

報告書作成は時間とパソコンがあれば問題なく可能である。この年の課題は、パソコン不足である。研究班50班に対してSGHレンタルパソコン30台。物理的困難が生じた。また本校の情報の授業が3年に設定されているため、wordで報告書を作った後に情報の授業が始まるなど、矛盾も生じた。

⑤ 誰も取り残さない研究班づくり「4人班」

この学年から研究班の推奨人数を6人から4人に変更した。理由は、人数が多いと、班員内で取り組む熱意に差が生まれ、意思疎通や目標共有に問題が生じる現象がみられたため。検証の結果、4人は適切な人数と考えられる。全員が議論に参加し、調査でも発表でも全員に重要な役割が与えられるため、疎外感を感じる生徒は皆無に近い状況でした。ひとりの教員が受け持つ研究班数は増えたが、

⑦で述べるように教員の役割も変更したため、負担の増加をもたらすことはなかった。

⑥ テーマ設定のあり方

過去3年間、本校のSGH目標に沿い、「地域の歴史・伝統・文化」「グローバル」「環境」を意識したテーマ設定を奨励してきた。もともとテーマ設定に大きな制約はなく、このスタイルに特に問題はなかった。しかし、ある程度の方向付けを行っていることにより、毎年似たテーマが多くなる現象がみられた。創造性を育て、主体的な研究を奨励する観点からすると、もっと研究テーマを自由にして、テーマ探しという探究の最重要観点（苦しみでもある）を味わってもらうのもいいのではないか。そ

のような教育効果を意図し、テーマの自由化を前面に押し出した。

この年度から「総合的な学習」が「総合的な探究」に変更され、将来も探究活動が続くことが確実となり、それを見据えた持続的探究学習のデザインも描き始めた。また時代は SDGs が強く意識されるようになり、どんな社会課題も、なんらかの形でリンクしていることを考えれば、本校の S G H 目標とテーマ自由化は問題なく共存できる方向性であった。

⑦ 生徒の主体性重視と教員の役割変化

「研究を楽しもう」この言葉を生徒への最重要メッセージとした。「楽しむことが生徒の主体性を育てる」、その信念のもと、「指導」という言葉を使わないようにした。「指導」や「教える」という言葉には上下関係が生じやすく、生徒は受け身となり主体性が磨かれない。また教員には「教える」準備が重くのしかかる。この課題を解決すべく、教員の役割を定義付ける言葉として、コーディネーター、ファシリテーター、伴走者、案内人等を使うようにした。本校では「指導教員」はいなくなり各研究班の「担当教員」となった。

⑧ ポスター発表からプロジェクターを使ったスライド発表へ

ポスター発表の学習効果を否定したわけではない。新型コロナ予防策として断念した。グループで手書きポスターを作成する過程で、必ず「密」が生じることから、探究のオンライン化を進める意図もあり、全学年プロジェクターを使ったスライド発表に変更した。

⑨ G Suite は教育ライフライン

前年度導入した G Suite を徹底的に活用した。詳細はオンライン教育推進の項参照。

⑩ コロナ禍がなければ、2 学年新クラスで新研究班結成の予定だった。

(理由)

- ・ 2 年次クラスで新研究班を編成した方が、生徒間、生徒と教師間の連絡が取りやすい。
- ・ 2 年次は修学旅行もあり研究時間の確保が難しいが、クラス単位なら放課後・昼休み・LHR・自習時間などを活用し研究できる。
- ・ 新しいクラスでの、新しい人間関係作りに寄与する。
- ・ 評価の問題。G L 探究の授業は旧担任、評価は現担任が責任者となるため、複雑な情報交換が必要であった。
- ・ このプログラムは、令和 3 年度「総合的な探究の時間」で実施し、検証する。

6 GL探究 実施内容の変遷 ～全学年で取り組むようになった3年目以降～

【平成30年度】

日程	時間数	1 学年	時間数	2 学年	時間数	3 学年
4 月 11 日 (水)	0.5	SGH ガイダンス、SGH とは何か	0.5	SGH、テーマ再考について	0.5	レポート修正・校正、面談
4 月 17 日 (火)	4	「佐倉を知る」市内徒歩調査（全クラス）	2	テーマ、先行研究、研究方法再考	1	レポート修正・校正、面談
4 月 24 日 (火)	1	テーマ、先行研究、研究方法	1	テーマ、先行研究、研究方法再考		
5 月 8 日 (火)	1	ドイツ・イギリス派遣報告会	1	ドイツ・イギリス派遣報告会	1	ドイツ・イギリス派遣報告会 またはレポート修正・校正、面談
5 月 15 日 (火)	1	仮課題研究テーマを見つける	1	課題研究	1	アンケート、ループリック調査、レポート修正・校正、面談
5 月 29 日 (火)	1	仮課題研究テーマを見つける	1	課題研究		
6 月 26 日 (火)	1	仮課題研究テーマを見つける	1	課題研究	1	レポート修正・校正、面談、SGUを目指す学習活動
7 月 9 日 (月)	1	ビジネスプラン説明会・夏休みGLアクティブ等について（体育館）	1	夏休みSGHフィールドワークについて、ビジネスプラン相談会		
7 月 10 日 (火)	1	仮課題研究テーマを見つける （夏休み調査、GLアクティブ他）	1	夏休みの調査方法検討 ビジネスプラン相談会		
9 月 4 日 (火)	2	1 分間スピーチ（夏休みGLアクティブなどの情報交換、仮課題研究テーマ、設定理由等発表）、グループ編成	1	夏休みSGHフィールドワーク資料整理、情報共有	1	面談、SGUを目指す学習活動
9 月 13 日 (木)	1	千葉大学 水島 治郎先生 「ポピュリズムとは何か」体育館	1	千葉大学 水島 治郎先生 「ポピュリズムとは何か」体育館	1	面談、SGUを目指す学習活動

9 月 18 日 (火)		LHR 講演会 (進路指導部)	1	課題研究		
9 月 25 日 (火)	1	グループ編成、課題研究 テーマ、設定理由等の修 正 発表準備		LHR 進路 大学模擬授業	1	課題研究
10 月 9 日 (火)	2	オーストラリア、シンガポ ール研修報告会 (25 分) ・ 発表準備	2	オーストラリア、シンガポ ール研修報告会 (25 分) ・ 発表準備	1	面談、SGUを目指 す学習活動
10 月 23 日 (火)	1	課題研究テーマ、設定理 由等の修正 発表準備	1	課題研究テーマ、設定理 由等の修正 発表準備	1	面談、SGUを目指 す学習活動
10 月 30 日 (火)	1	課題研究テーマ、設定理 由等の修正 発表準備				
11 月 6 日 (火)	1	課題研究テーマ、設定理 由等の修正 発表準備	1	課題研究発表準備、 レポート作成	1	面談、SGUを目指 す学習活動
11 月 16 日 (金)	3	国際理解教育講演会				
11 月 20 日 (火)	1	課題研究テーマ、設定理 由等の修正 発表準備		LHR 進路説明会		
11 月 27 日 (火)	1	課題研究テーマ、設定理 由等の修正 発表準備	2	課題研究発表準備	1	面談、SGUを目指 す学習活動
12 月 11 日 (火)	1	課題研究発表準備	2	課題研究発表準備		
12 月 18 日 (火)	1	課題研究発表準備	1	課題研究発表準備		
1 月 8 日 (火)	1	課題研究発表準備	1	課題研究発表準備		
1 月 15 日 (火)	1	課題研究発表準備				
1 月 22 日 (火)	2	課題研究発表準備	2	課題研究発表準備、レポ ート作成		
1 月 29 日 (火)	1	課題研究発表準備	1	課題研究発表準備		
2 月 19 日 (火)	3	校内発表会	3	校内発表会		
3 月 18 日 (月)	4	課題研究合同発表会	4	課題研究合同発表会		

3 月 末 ま で	0.3	ループリック評価	0.3	ループリック評価、レポ ート仮提出		
--------------	-----	----------	-----	----------------------	--	--

【令和元年度】

日程	時 間 数	内 容	時 間 数	内 容	時 間 数	内 容
4 月 10 日 (水)	1	探究・SGH ガイダンス	0.5	SGH ガイダンス	0.5	SGH ガイダンス
4 月 16 日 (火)	2	探究プログラム	1	テーマ、先行研究、研究 方法再考	1	論文作成
4 月 23 日 (火)	2	探究プログラム	1	テーマ決定 研究計画 書提出	1	論文作成
5 月 7 日 (火)	2	6 限ド・イ派遣報告会 7 限探究	1	ドイツ・イギリス派遣報 告会	1	論文作成
5 月 14 日 (火)	2	探究プログラム	1	探究活動	1	論文作成
5 月 21 日 (火)	2	探究プログラム	1	クラス中間発表会①口 頭 テーマ・調査計画	1	ループリック調査 アンケート
5 月 29 日 (水)	2	探究プログラム	1	探究活動 ループリック	1	レポート修正・校正
6 月 18 日 (火)	2	探究プログラム ※LHR と交換あり	0	文化祭前 LHR と交換	1	レポート修正・校正
7 月 12 日 (金)	2	探究プログラム GL アクティブについて アンケート	1	夏休みの調査について GL アクティブについて	1	レポート修正・校正 リベラルアーツ探 究
9 月 3 日 (火)	2	1 分間スピーチ（各自が 研究テーマ、設定理由等 発表） グループ編成	1	夏休みの調査 まとめ、情報共有	1	レポート修正・校正 リベラルアーツ探 究
9 月 10 日 (火)	0	ようこそ先輩	1	探究活動	1	レポート修正・校正 リベラルアーツ探 究
9 月 17 日 (火)	2	探究プログラム	1	クラス中間発表会②	1	レポート修正・校正 リベラルアーツ探 究
9 月 24 日 (火)	2	探究プログラム	0	LHR 進路 大学模擬授 業	1	レポート修正・校正 リベラルアーツ探 究

10月8日 (火)	2	6限オーストラリア、シンガポール研修報告会 7限2年H組SSHポスターセッション(体育館)	1	オーストラリア・シンガポール研修報告会	0	到達度確認演習
10月29日 (火)	2	グループテーマ決定 研究計画書提出	0	到達度確認演習	0	到達度確認演習
11月5日 (火)	2	探究活動	1	探究活動	1	リベラルアーツ探究
11月15日 (金)	2	海外理解促進のための講演会				
11月19日 (火)	2	探究活動	0	進路説明会	1	リベラルアーツ探究
11月26日 (火)	2	クラス中間発表会①口頭 テーマ・先行研究・調査計画	1	探究活動	0	進路行事
12月10日 (火)	2	探究活動	2	探究活動	1	リベラルアーツ探究
12月17日 (火)	1	ポスター原案(A3)提出	1	クラス中間発表会③	1	リベラルアーツ探究
1月10日 (金)	1	ポスター制作	2	探究活動		
1月14日 (火)	2	ポスター制作・2年生見学	2	発表リハーサル		
1月21日 (火)	2	発表リハーサル (テーマ別会場設定)	0	到達度確認演習		
1月28日 (火)	3	校内課題研究発表会	3	校内課題研究発表会		
2月4日 (火)	2	フィードバック ループリック評価	2	ループリック評価 論文作成について		
2月25日 (火)	1	新聞投書をしよう！	1	論文作成 課題研究発表会準備		
3月4日 (火)	1	2年次の課題探究へ	1	論文作成 課題研究発表会準備		
3月19日 (木)	4	課題研究発表会	4	課題研究発表会		

【令和2年度】(4～7月は休校措置や分散登校により大幅に変更 オンライン教育併用)

	時間数	1 学年	時間数	2 学年	時間数	3 学年
--	-----	------	-----	------	-----	------

5 月		オンラインで ガイダンス動画配信		オンラインでガイダンス 動画配信 班編成とテーマ相談		3 月から課題研究 報告書作成 生徒は在宅&オン ラインで作業
6・7 月	10	G Suite の活用 Google スライドの作 成・共有・提出 SDGs の理解を通して研 究テーマを考える。 1 分間スピーチと班編成 研究テーマの設定 インタビュー調査の方 法・アンケート作成の方 法・文献検索の方法 夏の調査計画を立てよ う。	5	G Suite の活用ガイド 探究活動 研究テーマと調査計画 発表会 課題研究活動	5	対面授業再開後 修正 6 月末課題研究報 告書完成
8 月下旬	今年度探究スケジュール・ゴール・イベントを発表					
8 月 25 日 (火)	1	探究活動（夏の調査の整 理 来週の発表内容を班 内で共有）	1	探究活動(夏の調査の整 理) スライド作成・動画作成 を案内	4	個人研究 リベラルアーツ 探究
9 月 1 日 (火)	2	小さな発表会❶（研究テ ーマ～夏の調査内容を口 頭発表 & 助言&フィー ドバック）	0	LHR と交換 探究なし		
9 月 15 日 (火)	2	探究活動 担当教員と 相談しよう。 日本語か英語か、発表言 語を決めよう。	0	大学模擬授業		
9 月 29 日 (火)	2	探究活動 担当教員と 相談しよう。	2	「気付く・探る・考える」 東京大学阿古教授講演 2 学年のみ対象行事 体育館で実施		
10 月 6 日 (火)	2	1 & 2 学年交流「〇〇を考える会」				
10 月 13 日 (火)	2	スライド&プレゼンの技 法 「こんなプレゼンは 嫌だ」 英語科&理科担当 (体育館で対面実施)	1	6 限 LHR 7 限探究活動		

10月27日 (火)	2	東京外国語大学 青山教授講演会	0	到達度確認演習		
11月10日 (火)	2	探究活動	1	探究活動		
11月17日 (火)	2	探究活動	0	修学旅行		
11月24日 (火)	2	探究活動	0	進路説明会		
12月1日 (火)	2	探究活動	1	探究活動(発表スライド 作成)		
12月15日 (火)	1	探究活動(発表スライド 仮完成)	1	探究活動(発表スライド 作成)		
12月22日 (火)	2	クラス発表会	2	探究活動(発表スライド 作成) 要旨作成		
1月12日 (火)	2	要旨作成	1	クラス発表会		
1月19日 (火)	2	プレゼン修正	0	到達度確認演習		
1月26日 (火)	3	学びの発表会(学年内交 流)	3	学びの発表会(学年内交 流)		
2月2日 (火)	2	プレゼン内容修正	1	プレゼン内容修正		
2月5日 (火)		課題研究発表会(全校行事)				
2月9日 (火)	2	発表スライド&動画デー タの提出	1	発表スライド&動画デー タの提出		
2月16日 (火)	2	新聞投稿で、世の違和感 を拾い上げる。	1	研究報告書(A4 P4~12 想定)		
3月3日 (火)	2	リベラルアーツ活動	1	研究報告書(A4 P4~12 想定)		

7 令和2年度GL探究 主な行事紹介

(A) 発表形式の改良 3つの発表会でブラッシュアップ

- クラス発表 (12月・1月) クラス単位でのプレゼンテーション
- 学びの発表会(1月26日) 学年単位でのプレゼンテーション(同一クラスなし)

● 佐倉課題研究発表会（2月5日） 1・2学年交流のプレゼンテーション

今年度から1・2学年とも、Google スライドを使ったプレゼンテーションに統一した。発表形式の共通化により両学年の交流がスムーズになったため、両学年とも同一歩調で佐倉課題研究発表会に向かうスケジュールを組んだ。

また、ゴールとなる佐倉課題研究発表会のスタイルも、昨年度までは代表班発表形式だったが、今年度から全班発表形式に拡大した。全生徒が共通のゴールを目指すことによりモチベーションのアップを図った。

<共通発表様式>

- 発表時間 7 分 質疑応答時間 7 分
- プロジェクターを使つての Google スライド発表
- 接続は、学校パソコン又は個人所有スマートフォン、どちらにも対応
- 生徒各自のスマートフォンを使い動画撮影し、後日提出
- 生徒による司会進行とタイムマネジメントのスタイル

<生徒成果物>

- 発表要旨 タイトル 40 文字 要旨 200 文字
- 発表スライド
- 発表動画

<令和2年度 佐倉高校課題研究発表会 要項抜粋>

目的 ・SSH・SGHの生徒課題研究発表を行うことにより、その成果を広く校内外で共有するとともに科学教育・グローバル教育・探究力の充実・推進を図る。
 ・全生徒が研究・発表・質疑に主体的に参加することにより、思考力・判断力・表現力を総合的に養う。

期日 令和3年2月5日（金）

会場 校内22会場（一覧表参照） 各教室の生徒数は33人以下想定

参加生徒 1・2年全生徒

発表班 1年普通科72班 2年普通科72班 2年理数科18班 計162班

日程・生徒の動き

8:25 SHR 8:40 発表会場で点呼・準備

発表タイムテーブル（発表時間7分 質疑時間7分）

9:00～ ①	9:20～ ②	9:40～ ③
10:00～ ④	10:20～ ⑤	10:40～ ⑥
11:00～ ⑦	11:20～ ⑧	

【生徒の動き】

(ア) 普通科 Google スライド発表 理数科 ポスター発表

(イ) 司会進行・タイムキーパー：発表を終えた班が担当

(ウ) 質疑時間が7分ありますので、全見学班が必ず質問をします。（質問の当たり前化推進）

(エ) 自分たちの発表を動画撮影します。

写真は、クラス発表会（第一段階の発表）の光景



(B) 1・2学年（普通科）交流 『〇〇を考える会』

目 的 「知的対話」を通じて、学年間の交流をはかります。

「探究」のノウハウを学年間で継承し、「探究」を佐倉高校の文化とします。

思考力・発信力、建設的な質問をする力、助言をする力を育てます。

ファシリテーターを生徒が務め、議論・質問・進行の経験値を高める。

日 時 10月6日（火） 6・7限

班編生 560名の生徒参加

各教室に6班 2年生3～4人 ＋ 1年生3～4人 計6・7名の班を作る

班編生はランダム（別紙で連絡） 同一クラスなし

運 営 会場教室の担任・副担任が各会場の進行&タイムマネジメントを行う。

進 行

【14:15～14:30】 移動&準備

各班の2年生は前・後半のファシリテーター、2名を決める。

【14:30～15:05】 ※2年生前半ファシリテーターが進行

『課題研究で自己紹介』 ※知的対話のためのウォーミングアップ

【15:05～15:15】 休憩 雑談力を鍛える時間

【15:15～16:00】 ※2年生後半ファシリテーター

『〇〇を考える会』

考えるテーマは、事前提示の10テーマから選択。

- 東京オリパラは開催すべきか？
- あなたの故郷（地域）の自慢と課題を考えよう。
- レジ袋有料化、効果はいかが？
- 衆議院の女性議員はわずか 10.1%です。女性国会議員を増やすための施策を考えよう。
- なぜ日本人は政治を語りたがらないのか？
- そろそろ新型コロナ対策を検証しよう。効果的な施策、無駄な施策、これからの施策。
- 台風シーズンです。防災について語ってみよう！
- SNS の誹謗中傷、あなたはどのように思いますか？ （vs 言論の自由）
- 海外留学、いつごろ、どこへ、何しに、行きますか？ これからの国際交流を考えよう。
- 本校の選挙はオンライン投票です。オンラインでやっていること、できそうなこと。

1 テーマ 8 分× 5 テーマ 想定 各自の発言時間は 1 分以内をお願いします。

テーマごとの議論の最後に、ファシリが、疑問や論点を整理し、「深掘り」してください。

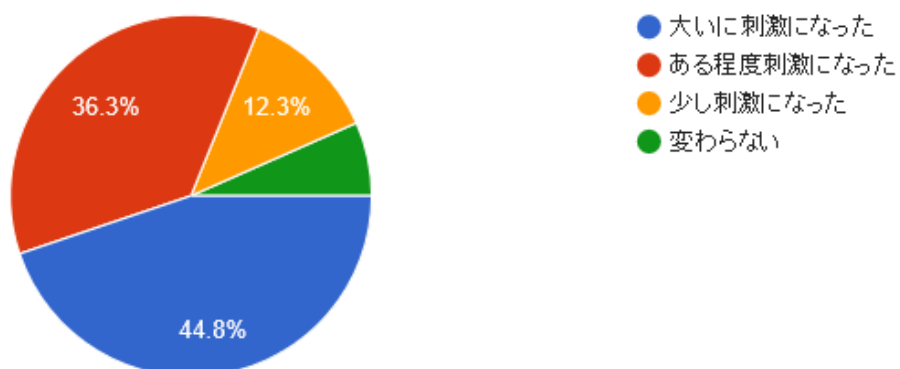
「深掘り」により、議論が盛り上がったら、とことん議論してもかまいません。

【16:00】エンディングは「一言感想」

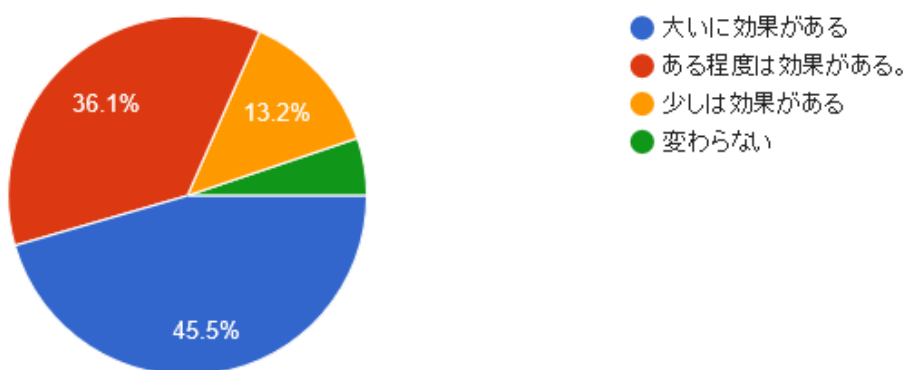
【放課後】google フォームアンケート



今回のイベントは今後の探究活動の刺激となりましたか？



思考力・判断力・表現力の向上に、今回のイベントは効果的ですか？



8 外部発表会との連携

全国高校生フォーラム	主催	SGH・WWL	各校1名	毎年参加
探究甲子園	主催	関西学院大学他	各校1名	毎年参加
関東・甲信越静地区高校生探究学習発表会	主催	立教大学		昨年度で終了
国際研究発表会	主催	千葉大学		毎年参加
千葉県課題研究発表会	主催	SSH		
観光甲子園	主催		今年度3チーム参加	
イオンエコワングランプリ	主催	イオン	今年度3チーム参加	
REASAS 地方創生★政策アイデアコンテスト	主催	内閣府		
高校生 My Project Award	主催	全国高校生マイプロジェクト実行委員会		

9 SGH課題研究報告書（レポート）の作成について

☆形式・提出方法・期限

横書き、A4版 42字×40行、余白上下2CM、WORD、8～15ページ

日本語…MS明朝 10.5、ページ番号は下中央部、英語…Times New Roman 10.5ポイント

英語のレポートは、題名も英語で。右上の班名と、3年、氏名の部分は日本語で統一します。

☆内容

分担して執筆し、章や節の最後に（「文責：〇〇」）と入れてわかるようにする。必ず以下の要素を含むこと。

題名 （センテンス・MS明朝20ポイント）	
A2班	
（研究者名）	3年
（氏名）	
（氏名）	
Abstract （研究の要旨・日本語班は、必ず英語で）	
……（文責〇〇）	
1 研究目的 （課題設定理由・背景はここに入れる、ここに先行研究・事例を入れてもよい）	
（1）	
①	
②	
（2）	
……（文責〇〇）	
2 調査 （研究の手法・内容・結果・分析を含む）	
（1） 調査・分析1 （先行研究・事例をここに入れてもよい）	
（グラフ・写真などの出典をグラフの下にも明記する。（ ）を付けてMS明朝8.0）	
グラフ1	グラフ2
（2016年度厚生労働白書より作成）（内閣府ホームページにより作成）（2016年8月10日毎日新聞より作成）	
（2） 調査・分析2 （アンケート調査、調査対象の属性年齢・性別・国籍など、人数なども入れる）	

(3) 調査・分析3 (文献、アンケート調査の他にインタビュー、出前授業など)

3 結論・提案 (今後の展望もここに含む。)

4 出典・参考文献一覧

- ・書籍…○山口郎 (2012) 『効果的な英語教育法』 (○○新書) ○○社
- ・雑誌記事・論文…○藤○代 「世界の英語」 『英語学習』 2010 年 5 月号
- ・新聞記事… 「英語教育は必要か (見出し)」 『朝日新聞』 2010 年 7 月 10 日朝刊
- ・Web サイト… 「公立小学校の英語教育」 『文部科学省』 <http://...>参照日 2018 年 7 月 10 日
- ・国土交通省 『平成 30 年度版観光白書』 (2018)

(題名)

A 2 班

(研究者名) 3 年 (氏名)

(氏名)

(氏名)

Abstract

..... (Sakura Hanako)

1 Purpose (課題設定理由・背景はここに入れる)

(1)

①

②

(2)

..... (文責○○)

2 Research (研究の手法 Methods・内容・結果 Results・分析 analysis/Discussion を含む)

(1) Research 1

①～～ (グラフなどの出典をグラフの下にも明記する。Times New Roman 9 ポイント)

Figure①

Figure②

Source: Ministry of Education, Science and Technology 2016

(2) Research 2 (Questionnaire)

(調査対象の属性年齢・性別・国籍など、人数なども入れる)

(3) Research 3 (Questionnaire の他に Interview、 Demonstration Lesson 等)

3 Conclusion (提案 Suggestions でもよい。今後の展望 Future Prospects もここに含む。)

4 References (日本語の例を参考に、日本語の書籍であれば日本語でよい)

- ・Thelin、 John R.、 2004、 *A History of American Higher Education*、 The Johns Hopkins University Press

私たちの研究目的は～です。The purpose of our project was～ などの表現は要らない。
項目立てに「目的」 ” Purpose” などが入っているので、直ちに本題に入って構わない。

レポートを提出する前のチェックポイント

- ① レポートの内容は課題（テーマ）に沿ったものになっていますか。
- ② レポートの構成は、テーマ・研究の目的・背景・調査研究内容・分析・結論・提案・今後の展望・出典・参考引用文献の要素を含んだ構成になっていますか。
- ③ 自分（たち）の主張には適切な根拠がありますか。
- ④ 研究目的で述べた内容が、結論・提案に対応していますか。（最も大切な部分です。）
- ⑤ パラグラフ（文章の一区切り。段落。節。）同士が論理的につながっていますか。
- ⑥ 自分の意見と他人の意見を明確に区別していますか。
- ⑦ 文献や論文、インターネットの情報を引用した文（短い文の場合）は、日本語文の場合「 」（『 』著者〇〇）、英文の場合“ ”（『 』著者〇〇）の中に入れましょう。
- ⑧ 出典・参考文献一覧は、次のように書いてください。
 - ・後藤芳文他（2014）『学びの技14才からの探究・論文・プレゼンテーション』玉川大学出版部
 - ・Thelin、John R. 2004. *A History of American Higher Education*. The Johns Hopkins University Press.
- ⑨ レポート全体を読み直してみて、文章は明快で読みやすく書けていますか。
- ⑩ レポートの文章は「です・ます」調ではなく、「である」調で統一されていますか。
- ⑪ パラグラフ（段落）の一文字を下げて書いていますか。
- ⑫ 誤字・脱字、変換ミスはありませんか。スペルチェックをしましょう。
- ⑬ 学年・氏名・共同研究者・文字数・行数・ページ番号などは、指定されたとおりになっていますか。

盗用・剽窃は絶対にやめましょう！

例

- 他人の論文や文献の内容を、書誌情報を明記せずに自分のレポートに書くこと
- インターネット上の情報を、URLなどを明記せずにコピー&ペーストすること
- 友達や先輩のレポートをそのまま写したもの

（「Master of Writing」『立教大学』を参考に作成

10 本校の課題研究の今後 令和3年度探究学習プログラム（予定）

5年間のG L探究の成果を活かし、今後も全生徒・全学年で課題研究に取り組んでいく。

【1学年】

4月	<ul style="list-style-type: none"> ● 探究ガイダンス 「なぜ探究が求められるのか？」【探究学習部】 ● SDGs の理解を深め、それを切り口に社会の諸課題を考える。【地歴公民科】 動画資料、SDGs 紹介ゲーム、KJ 法など活用 ● 身近な地域の課題をグループで討議し考える。 グループワーク&発表活動
5月	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の興味・関心を表現する「1分間スピーチ」 4人標準の研究班作成 ● 各班の研究テーマを考える。 ①数多くのアイデアを出す。 ②研究テーマとして成り立つか可能性を考え、精選する。 ③テーマ決定（ただし研究途中の変更は随時可能） ④担当教員との相談 ● クリティカルシンキング活動「考える会」1・2学年共通行事 【探究学習部】
6月	<ul style="list-style-type: none"> ● 「調査方法を学ぶ」 文献調査 インタビュー調査 アンケート調査 先行研究の重要性 独自のフィールドワークが必要性を学ぶ。【国語科】
7月	<ul style="list-style-type: none"> ● 夏休みを使ったフィールドワークを計画する。
8月	<ul style="list-style-type: none"> ● フィールドワーク
9月	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究目標の再確認 夏のフィールドワークの整理 「担当教員への報告」と「担当教員からの助言」 ● 「小さな発表会」6人グループで中間報告 全員が発表し、意見を述べ、全員が主体的に研究活動に取り組むのが目的 ● 講演会「気付く・知る・考える」 外部講師
10月	<ul style="list-style-type: none"> ● プレゼンテーション学習「こんなプレゼンは嫌だ」【英語科】 スライド作成 アウトプットの留意点を学習する。 ● 研究活動
11月	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究活動 スライド作成
12月	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究活動 スライド作成 ● クラス発表会 初めての本格的プレゼンテーション 体験を通して学ぶ
1月	<ul style="list-style-type: none"> ● 発表内容のブラッシュアップ ● 「学びの発表会」学年単位の発表会
2月	<ul style="list-style-type: none"> ● 「佐倉高校課題研究発表会」全校発表会 ● 発表スライド&動画の提出 アンケート ● 「世の中の違和感を拾いあげる活動」新聞投書活用
3月	<ul style="list-style-type: none"> ● 次年度プログラムの紹介

【2 学年】

4 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 探究ガイダンス ● 1 年次の研究経歴と自分の興味・関心を表現する「1 分間スピーチ」 4 人標準の研究班作成 ● 各班の研究テーマを考える。 ①数多くのアイデアを出す。 ②研究テーマとして成り立つか可能性を考え、精選する。 ③テーマ決定（ただし研究途中の変更は随時可能） ④担当教員との相談
5 月	<ul style="list-style-type: none"> ● クリティカルシンキング活動「考える会」1～2 学年共通行事 ● 先行研究調査
6 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査計画の策定 夏のフィールドワークを必須とします。
7 月 8 月	<ul style="list-style-type: none"> ● フィールドワーク 現地調査&インタビュー調査奨励 『足で稼ぐ』
9 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究目標の再確認 夏のフィールドワークの整理 「担当教員への報告」と「担当教員からの助言」 ● 「小さな発表会」6 人グループで中間報告 全員が発表し、意見を述べ、全員が主体的に研究活動に取り組むのが目的 ● 講演会「気付く・知る・考える」 外部講師
10 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究活動 スライド作成
11 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究活動 スライド作成
12 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究活動 スライド作成 ● クラス発表会
1 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 発表内容のブラッシュアップ ● 「学びの発表会」学年単位の発表会
2 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 「佐倉高校課題研究発表会」全校発表会 ● 発表スライド&動画の提出 アンケート ● 論文作成の手法を学ぶ。 「課題研究報告書」作成
3 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 次年度プログラムの紹介

【3 学年】

4 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 「課題研究報告書」作成 ● 新入生へ模範プレゼン
5 月	<ul style="list-style-type: none"> ● 「課題研究報告書」完成
6 月 以降	<ul style="list-style-type: none"> ● 個人研究 ● リベラルアーツ学習

11 令和2年度研究テーマ

【3学年】

簡易ろ過装置作成方法の提案～身近な素材で自分を守る～	貧困の子どもを救う～身近な物でワクチンを届けよう～
せいがく餅を広めよう！～千葉の伝統料理を引き継ぐ～	After school problem ～子どもたちに第2の家を～
HOW to increase the local population ～地方の人口を増やすには～	印旛沼をナガエツルノゲイトウから守ろう！～Part 2～
ピクトグラムで世界を迎える	受動喫煙による健康被害を減らす
ハラールフードを広めよう	食品ロスの現状と枝豆を利用した意識啓発活動
佐倉市の魅力を伝えよう	The road of waste plastic
ムスリム向けの非常食	ゴミ箱を探せ！
ベジタリアンのためにできること	アレルギー食を楽しもう！
米文化から伝える日本の和菓子	ゆるスポーツを活性化に使用し知名度を上げる
Pochi 玉つぶ hazard map with pets	新規農業者を増やそう
パンプキンマジック～全部食べなきゃイタズラするぞ～	Japanease Bicycle Manners～自転車大国オランダから学ぶ～
日本茶を広めよう～佐倉から～	Save Elderly People from Malnutririon
フードバンクを広げよう	The Garbage Saves the World
米離れの解消	Eliminating Vegetable Food Loss
子どもと社会との新しいつながり～New childcare center system～	Developing Vegetarian Food For Tourist
プラスチックについて知ろう	World Ankolization Project
フードロスをなくそう	Increasing Muslim Tourism by Halal Ramen
佐倉の観光マップ	Sahara Desert In Yachimata
校則から生徒を自由に	Tableware to save the world
Welcom to Sakura～佐倉市に外国人観光客を呼び寄せよう～	High School Students Thought Seriously about Gender
地震対策リーフレット	We can` t stop loving about TAKO
ピーナッツレポリューション	Emergency Information Brochure
東庄町を活性化させよう	Kyusu Project
世界あんこ化計画	Let` s Learn about Refuse
害獣と私たち	Revitalization through OMATSURI
農カフェで農業を救おう	How Can We Reduce the Food Loss
	Smombie ～Walking Smartphone Eradication Committee～

【2 学年】

商店街は要るか？要らないか？	近年の若者の読書離れについて
ジェンダー差別について	メタンハイドレート
時代が変わる？～オンライン社会との繋がり方～	日本の木材自給率を高めよう
SDGs について ～目指せ理想の世界～	CM の効果について
オンライン授業の有効活用	オンライン授業の可能性を探る
ノーコロナ・ニューライフ	日本の福祉と世界の福祉
駅で人とぶつからないようにするためには	健康的な食事をカンガエヨーゼ
動物の殺処分問題について ～救える命を増やそう～	(vs コロナ) 感染症を撃退せよ～We Are Virus Bastards～
風呂敷の魅力を世界へ	9 月入学について
高校生がやりやすいダイエットとは…	コンビニ大手 3 社比較
考えようフードロス	電子書籍の増加による紙媒体への影響
ボイ捨て撲滅～protect the environment	上手に痩せたい！
Universal gesture	最高の睡眠への一歩
ハラールについて	優先席の必要性
アニメで伝える伝統工芸品	小型風力発電のすすめ
駄菓子～駄菓子と駄菓子屋を守る～	9 月入学について
ペットボトルのない世界へ～未来と環境とそれから私達～	皿洗いでの節水～家庭でもできる水不足対策～
牛乳離れを防げ！	空き家の再利用と処理方法
頭の良さと音感	『理解る』デザイン
思い悩まずハッピーに	Re: start living healthy from zero
僕たちと AI	Traditional culture needs young power
正しいヤバイ	Let's use vinegar! Let's reduce salt!
交通事故を減らす	Vegan Life Once a Week
若者と政治	Equal Online Education
古着＝捨てるもの？	Spread Blood Donation
色の効果	Support Of the Affected Areas
音楽の効果～私たちとの関わり～	Increase the Youth Voting Rate
そうだ佐倉、行こう。	Revital of the Shopping Street
Welcome to Sakura～Parfect Day Trip Plan～	The Help Mark
Wearing Traditional Clothings	INFECTIOUS DISEASES AND CLIMATE CHANGE
Can't let it bee 蜜です	Promoting of Sakura
No more Internet bully	Love is priceless
Oh My God Insects!	Chisanchisho
Good Uchiwa	

【1 学年】

佐倉市 PR 計画～知られざる佐倉の魅力を伝えよ!～	プロジェクト N～空港と環境～
Nutrition is our hero!!～We want to stay healthy!!～	プラスチックゴミを減らそう。～ウミガメの鼻にストローが刺さらない社会～
授業に集中するためには	睡眠と学習の有効性について
より快適な睡眠をとるには	手話について
捨てる部分を美味しく楽しく！	Why Does Japan Care So Much about scandals?
最強の勉強環境をつくらう！～負荷を減らした環境づくり～	火星移住プロジェクト
AI とヒト	情報化社会と日常
時間の投資～ボランティアを通して～	What can we do to reduce food loss?
Making Allergen Free Sweets	「学ぶ」とは
We Are the World ～Pictogram Communication～	高校生とキャッシュレス決済
100 年後の地球のために ～地球環境とプラスチック～	目指せコミュカおばけ～コミュニケーション能力を高めるためには～
恐怖を知る	Eyesight Recovery
現代社会とレジャー施設	Problem of Lack of Doctors
Disney タノシイヨ!!	くすりとうまく付き合おう！
登校を楽にする method	知ってますか?「ドリームボックス」
Sightseeing of Sakura	これで君もゲームマスターだ!!
この世界から虫が消えたなら ～虫からの恩恵～	プラスチックごみ ～わたしたちにできること～
睡魔との上手な付き合い方のすゝめ	より良い睡眠を求めて
日本と世界各国の地震の実態について	企業の理想～企業に人間は必要か～
Let's eat breakfast!	Not trust yet!
Good-bye COVID-19	高校生の恋愛
プラスチックゴミを減らそう	占いとメディアリテラシー
難民を救うために何ができるか	ハラスメントについて
性差に関する研究	ハラルラーメン
The difference of manners ～Let's enjoy to travel abroad～	登校について
Mass Disposal × Fashion 服の大量廃棄	学習効率の向上
耳をすませば～響け、若者の声～	オリンピックってどうなるの?
脱スマホ依存 ～スマホがもたらす悪影響～	GAP YEAR について
Rolled the World with Futomakisushi	Are You Really Being Nice?
マスクによるコミュニケーションへの影響	効率の良い記憶方法
NO MORE FOOD LOSS	給食で世界を救え!!
青春の日々～季節の勉強をそえて～	見えない障がい
子供を天才に育てる方法	殺処分される犬猫を救い隊
LGBT について	How to save our earth?
AI と仕事の関係	選挙について
食品ロスのリアル	ミッション：プラスチックから動物を救え
	色いろいろ